



[ものづくり・商い・もてなし]

歴 081 (H28)

平安京遷都とともに造営された内裏の一角、下立売智恵光院西入、下立売通の北側に約200年続く老舗の山中油店があり、南側に山中油店の所有する米蔵や町家などが並んでいます。

通りに面して2軒の町家が建ち、その西側奥に米蔵と蔵があります。並びの駐車場を奥に抜けると、町家が2軒あります。

明治から大正期に建てられた町家（東側の建物）の主屋は、木造瓦葺き厨子2階建てで、切妻造平入りです。

隣の町家（中央の建物）は、現在「ギャラリー祭宙庵」として営業しており、玄関には広々とした吹抜けの空間を設け、梁などを敢えてそのままにしており、構造の魅力が活かされています。

通路（西側の建物）は狭く、奥への通路兼倉庫となっており、1階は側壁以外に柱や壁がない一室空間で全体を土間としています。

明治期に建てられた米蔵は、妻入り、平屋建ての高い天井による広大な空間で、約7mの丸太の梁が1間置きに連続する姿は壮観です。農地解放前までは、年貢米が納められていたと伝わり、蔵とともに現在も倉庫として使用されています。

奥にある2軒の町家は、ほぼ左右対称となっており、木造瓦葺き厨子2階建て、切妻造平入りの典型的な京町家の姿を維持しています。



通りから



米蔵